



# 退職にあたって

経営学部 学部長  
**富岡 庄一** 教授

2012年4月、広島大学経済学部を定年退職して、鳥取環境大学(大学名に「公立」がまだ付いていませんでした)経営学部に着任しました。いきなり学部長を命じられ、面食らいました。経営学部の先生方も困惑されたのではないかと思います。しかし、教職員の皆様の御支援を得て、なんとか歩み始めることが出来ました。2012年4月は、鳥取環境大学が公立大学法人として新たに発足した年でした。学部構成も、環境学部と経営学部の新学部が発足しました。私は、広島大学以前にも、幾つかの大学に勤務していましたが、いずれも、既に長い歴史を持って、出来上がった大学・学部でした。鳥取環境大学で、初めて、新たな大学・学部作りに加わることになったのです。その際、私の脳裏にあった「大学像」は以下のようなものです。

そもそも「大学」の歴史は、12世紀頃のヨーロッパの都市で学生と教師の共同組合として始まった。法学、医学、神学が中心であった。このような大学はやがて衰退するが、19世紀初頭のプロイセン国民国家でベルリン大学として復活する。実験室やゼミ室で研究を通じて教育するという方式で近代科学における様々な成果が生み出された。教育は既存の知識体系を伝授することで、研究は既存の知識体系を乗り越えて新しい知識体系を構築する営みである。このような大学像は日本にも伝わり戦前の帝国大学の基礎となった。又、アメリカ合衆国にも伝わり、既存の「大学」(ラテン語や古典の教養を教えた)の上に「大学院」(研究が中心)があるという形で発展した。この方式は、戦後の日本にも導入された。このような大学の歴史が示すように、

大学においては研究と教育が一体のものである(研究を通じた教育、研究に支えられた教育)。

大学の質を高めるとは、より優れた研究に支えられたより優れた教育を目指すことであると考えます。但し、これは大学の基本的なあり方で、現実には研究に重点を置いた大学、教育に重点を置いた大学等があります。公立鳥取環境大学は、教育に重点を置いた大学として発展すべきであると思います。公立鳥取環境大学が更に素晴らしい大学になるよう祈念します。有り難うございました。

## 人事報告

### 2018年3月31日をもって7名の教員が退職されます。

経営学部 教授 **富岡 庄一** (在職:2012年4月~)環境学部 教授  
**松村 治夫**  
(在職:2011年4月~)環境学部 教授  
**岡崎 誠**  
(在職:2001年4月~)経営学部 教授  
**武部 隆**  
(在職:2012年4月~)経営学部 教授  
**日置 弘一郎**  
(在職:2015年4月~)経営学部 教授  
**北崎 寛**  
(在職:2009年4月~)経営学部 准教授  
**泉 美智子**  
(在職:2012年4月~)

## 着 | 任 | 挨 | 拶 |

環境学部 **山口 創** 講師

2017年10月に環境学部に着任致しました。私の専門は農村計画学で、農村地域が直面している様々な課題の解決や、持続的発展の方策について社会科学的視点から研究を進めています。いわゆる地域活性化と呼ばれる分野です。農村(フィールド)に行けば、我々が研究すべき課題は山ほどあります。学生さんには、教科書から学ぶだけでなく実際にフィールドに出向き、五感を通して農村の現状を理解し、課題をみつけ、自分なりに解決策を考えて欲しいと思っています。また、自分で課題を見つけ、解決策を考える経験は、社会に出ても必ず役立ちます。ゼミ活動や講義を通して、このような学びの機会をたくさん作っていきたくと思っています。どうぞ宜しくお願い致します。